

歴博 ぐらしの植物苑だより

第96回『ぐらしの植物苑観察会』3月24日(土) 13:30~ ぐらしの植物苑

「梅と桃と桜」 澤田和人 (本館研究部情報研究系)

第97回『ぐらしの植物苑観察会』4月29日(日) 歴博みどりの日 (入苑料無料)

「ぐらしの植物苑と下総の森」 鈴木三男 (東北大学植物園) 13:30~ぐらしの植物苑

今週のみどころ : <http://www.rekihaku.ac.jp> (毎週更新)

ほかに苑内でみられる花

サザンカ・ツバキ : ハルサザンカ・ツバキ・ヒメサザンカ・ヤクシマツバキ・ヤブツバキ・佐助

ウメ : 唐梅・紅梅・白梅 ロウバイ : ソシンロウバイ ミツマタ : ニオイミツマタ ダンコウバイ

マンサク : シナマンサク・ベニバナマンサク ナバナ スイセン シロバナタンポポ ホトケノザ

ボケ 八丈キブシ ユキヤナギ

ハコベの花をよく見てみよう

私達の身近な花ハコベ ハコベの仲間には多くは野菜として、また鳥の餌として利用されています。長澤武氏がまとめた中部地方以北の山菜調査の中に、全地域でゆでて食する。昔から催乳作用があり、産後の婦人によいといわれている。また胃腸にもよいといわれているとあります。身近でみるハコベ属にはノミノフスマ、ウシハコベ、ハコベ、コハコベなどがあります。

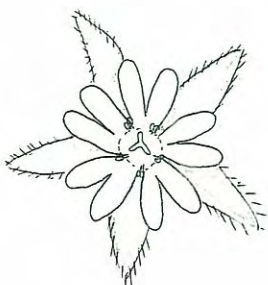
ノミノフスマ : 畑・田の畦に生える2年草。全草に毛はない。葉は1~2cmの長楕円形
花は直径1.5cm、花弁は5枚、基部近くまで切れ込んでいて10枚のように見える。夏は花弁の発達が悪く花弁のないものもある。

ウシハコベ : 畑・田に多い2年または多年草。茎は暗紫色を帯びるものが多い。茎の上部や花柄には腺毛がある。葉は2~7cmの卵形。花はハコベに似るがハコベは雌しべの先の花柱が3個あるが、ウシハコベは5個ある。

ハコベ : 畑や道ばたに普通に見られる1~2年草。葉は1~3cmの卵形。茎や葉も緑色。
花弁は5枚、基部近くまで切れ込んでいて10枚のように見える。オシベは4~10個。

コハコベ : どこでも見られる2年草。全体にやや小さく、茎が暗紫色を帯びるものが多い。
葉は1cmほどで、おしべは1~5個。がく片が花弁より短い、がくに腺毛がある。

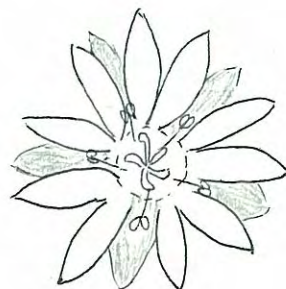
ハコベ



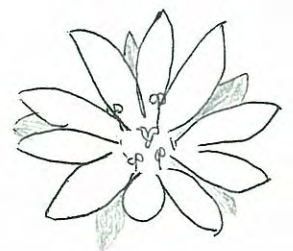
コハコベ



ウシハコベ



ノミノフスマ



コマツナ “小松菜” (アブラナ科アブラナ属)

黄色の十字花が咲き初めてきました。小松菜は関西ではあまり栽培されていません。主に関東で栽培され、お浸しや油炒めによく利用します。花には花弁が4枚、長いおしべが4本と短いおしべが2本あり、これはアブラナ科に特有です。



トサミズキ (マンサク科トサミズキ属)

自生地は高知県(トサ)の蛇紋岩、石灰岩地帯です。限られた自生ですが春先に黄色の花が咲く落葉低木で、庭木としてよく植えられています。花は穂状に6~8個の花がつき、暗赤色の葯と細長い花柱が2本見えます。



サンシュユ (ミズキ科ミズキ属)

中国・朝鮮原産の落葉小高木で、春先に黄色の花が咲く木として庭に植えられています。花は小さいですが花弁は4枚、おしべは4本で花弁の先端は反り返っています。樹皮は不規則の鱗状にはがれ、若い枝には4個の鈍い陵があります。



ジンチョウゲ (ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属)

中国原産の常緑低木で、早春、枝の先に10~20個の頭状花を咲かせ、芳香が強い木です。花弁に見えるのはがくで外が紫紅色、内が白色で平開します。雌雄異株とされていますが花では確認することはできません。雄性で結実しない株が多いです。苑内には花の色が白い園芸品種のシロバナジンチョウゲもあります。



伝統の桜草 (4月17日から5月6日『伝統の桜草』展開催予定)

例年になく暖かい冬、桜草の芽分け・植え替えが終了しました。250品種各2鉢にもおよぶ鉢数です。もう芽が出ているものがあります。4月中旬には可憐な花を咲かせてくれることでしょう。

